

■中国：国家電網有限公司が電力貯蔵設備の導入を加速

国家電網有限公司は2018年11月15日、南京で開催された電力貯蔵設備（ESS）フォーラムにおいて、電力システムの柔軟性と安定性を高めるため、2018年1～9月までに合計14万kWのESSを導入したと発表した。国家電網有限公司は、江蘇省、河南省、遼寧省では主に需給調整用として、山西省、広東省、河北省では主に周波数調整用として、チベットと東部の島嶼市域ではマイクログリッドの予備電源として、それぞれESSを導入した。送電会社は、今後、青海省や新疆自治区で再エネ発電所が拡大する見込みであることから、システムの安定度を高めるため、両地域にもESSを導入する予定である。なお、現在、同社が建設中あるいは計画中のESSは合計46万5,000kWである。